

## 岡部研究プロジェクト「研究論文概要集」(2003年度秋学期)について

岡部研究プロジェクトでは、1998年度春学期以降、参加メンバーが学期中に執筆したすべての研究論文の「概要」を学期毎に一冊にとりまとめて刊行しています。本書は、2003年度秋学期のものであり、このシリーズの第10号に該当します。

今学期の研究テーマは、研究プロジェクト1「金融研究：情報化の進展と金融業」、研究プロジェクト2「日本経済研究：情報技術革新と日本経済」の二つであり、ともに情報通信技術革新のインパクトを広範に検討することを中心課題としました。今回の概要集は、第3号以降の刊行物と同様、二つの特徴があります。一つは、ここに収録されている論文要旨は、すべて研究報告会議において報告され（今回は2004年1月17～18日に湘南国際村で開催）、そこでの討議を踏まえて改訂されたものとなっていることです。もう一つは、この冊子の刊行が湘南藤沢学会の正式刊行物として発行されたことです。

本書を刊行する理由は二つあります。第1に、各研究の成果の要点を記録しておくこと自体に意味があることです。第2には、研究テーマとして多様な視点があることを示すことによって、今後の研究の糸口を見つけるヒントになることが期待されるからです。なお、個々の論文に対する質問等は、直接執筆者に対して行ってください（電子メールアドレスは各人の名前のあとの記号@sfc.keio.ac.jpです）。また、過去の「概要」集の目次（履修者の研究テーマ一覧）は岡部研究プロジェクトのウェブサイトに掲載してあります（アドレスは下記）。

なお、これらのうち最優秀と認められたもの（各研究プロジェクト1編、計2編）は、従来どおり、その論文全体が単独刊行物として湘南藤沢学会より刊行される予定です。従来のそうした岡部研究プロジェクト優秀論文は、それぞれすでに公刊されているほか、そのすべてがインターネット上でも公開されており、論文全体を簡単にダウンロードすることもできます。

2004年1月

総合政策学部

岡部 光明

<http://web.sfc.keio.ac.jp/okabe/>

# 目 次

## 研究会 1

債権の証券化と日本の金融システム：銀行から機関投資家へのリスク移転（伊藤貴史）	- - 1
わが国金融機関における新しい金融手法（大野昌輝）	- - - - - 2
中国株式市場の現状と問題点：上場企業を中心とした考察（王 国君）	- - - - - 3
企業の資金調達における転換社債の意義：リスク・ガバナンス・インセンティブの視点から（光安孝将）	- 4
証券化による資金調達：中小企業金融の円滑化（小谷光星）	- - - - - 5
不良債権の現状と課題：金融機関の視点から（永川朋宏）	- - - - - 6
デフレの現状と取りうる金融政策（遠藤泰光）	- - - - - 7
株式持合の近年の動向と変化（米谷 曜）	- - - - - 8
部門間生産性格差の分析（藤原史義）	- - - - - 9
銀行のコーポレート・ガバナンス：非金融業との比較から（岸本庄史）	- - - - - 10

## 研究会 2

公開企業の完全子会社による親会社の企業価値に与える影響（吉沼良介）	- - - - - 11
情報通信産業の経済的役割：実態を踏まえた政策とは（日向里奈）	- - - - - 12
株式持合いの決定要因（藤井 恵）	- - - - - 13
日本企業のガバナンス構造と雇用調整：企業財務データを用いた実証分析（杉山貴昭）	- 14
日本資本主義の地域構造：内部的多様性への視座（遠藤倫生）	- - - - - 15
製造業における新規企業の市場参入：工業統計表による実証分析（千野剛司）	- - - - - 16
研究開発投資の可能性：マクロ経済における知的資本経営の必要性（海老沢利光）	- - - 17
進む少子化とその対策（木村暁穂）	- - - - - 18